特集

たからものだよ、みんな!

一人ひとりの輝きを大切に「特別支援教育」充実強化へ

「窓ぎわのトットちゃん*」は、落ち着きがないからと、小学校を追い出されてしまいました。以前の学校や社会では、型にはまらないもの、理解できにくいものを、区別してしまおうという風潮があったように思います。現在はどうでしょう。

学校は、一人ひとりとていねいに向き合い、考え方や個性を尊重し、それぞれの子どもの可能性の芽を伸ばす方向に変わってきています。集団のなかで周囲とうまくなじめず、関係を築くことが苦手なために、悲しい思いをしないように。互いの違いや個性を認め合い、いきいきとした生活を送れるように。こうした願いを大切に、子どもの気持ちに寄り添い、学習や生活のなかで生きる力を育むための教育が、重視されています。

今月は、「特別支援教育」について理解し、その取り組みを通して、支え合いの心を学びたいと思います。

*黒柳徹子 著(1981年/講談社)

「特別支援教育」ってなぁに？

障害のある子どもの自立や社会参加に向け、個性を尊重し合う社会をつくるため、学校に「心のバリアフリー」を根づかせながら、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高めて、生活や学習上の困難を改善したり克服したりしていかれるように、適切な指導、必要な支援を行うこと。あらゆる学校、あらゆる学級で、それをめざします。

最近では、身体的な障害や知的発達の遅れだけでなく、集団のなかでうまく適応できないなど、発達特性のある子どもも増加し、またノーマライゼーション※の進展なども背景として、いずれの学校においても、特別な支援を必要とする児童生徒に配慮していくよう、校内では、校長、担任、特別支援教育コーディネーターが中核となり、医療、保健、福祉などの機関と連携、協力して対応しています。

岡谷市では、平成24年度から3年間の計画で、特別支援教育に重点を置いて取り組んでいます。

※ノーマライゼーション…障害者を特別視するのではなく、一般社会のなかで普通の生活が送れるような条件を整えるべきであり、ともに生きる社会こそあたりまえであるという考え方です。

教えて！茅野先生

田中小の茅野進校長は、障害児教育に長年携わってきた経験から、諏訪地区特別支援教育コーディネーター等連絡会を立ち上げ、諏訪圏域での研究、啓発をリードする第一人者。

田中小でも工夫をこらしながら、特別支援教育の実践に努めています。

特別支援教育って…？などなど、みなさんの疑問に、茅野先生と市の担当職員がお答えします。

学校は、どう変わるの？

A まずは授業を、だれにとってもわかりやすく、学びやすいものにします。教育のユニバーサルデザイン化と考えれば、わかりやすいと思います。子ども本来の好奇心で、どんどん学べるように、それをやりにくくしているものを整理し改善していきます。

子どもへの説明は、センテンスを短くして簡潔に、掲示物など余分な刺激は取り除く、困ったときのサインを決めておく…といったように、ひとつずつ授業に集中できる環境をつくっていきます。教師は、新しい視点と新しいものさしをつねに持って、継続して研究し、力量を高めて行かなくてはいけないと考えています。

保護者や地域のみなさんには、障害を特別視する空気をなくし、もっと近くに来て現状を正しく理解し、認め合い、必要とし合って、ともに生きるという意識を持ってもらえるよう、発信していきます。行政においても、教育環境の整備や相談支援体制の充実を図っていただき、子どもの成長を支えていくことができるよう努力します。

市はどんなことをしているの？

A 障害のある人が、社会のなかで普通に生活し、その一員として豊かに生きていくためには、地域にとけ込んで、活動をともにし、仲間としてわかり合っていくことが必要です。学校において、障害のある子どもたちと障害のない子どもたちが、ともに学び、ともに育つ環境を整えていくことは、その第一歩。「知りあい、ふれあい、学びあう」ことを通して、子ども同士が相互理解を深め、障害のある子どもも「社会で自立できる自信と力」を育むことができるよう、道をつくり進めていくのが市の仕事です。学校と家庭の橋渡しや地域への働きかけはもちろん、広範囲での連携に力を入れるとともに、相談機能を充実し、教育力の向上を図っています。また、新たなしくみとして、副学籍の来年度導入に向け、

現在準備を進めています。

副学籍の意味と目的は？

A 副学籍とは、特別支援学校に通う子どもが、自分の住んでいる地域の小・中学校にも副次的に籍をおくこと。ともに学び、ともに育つ機会の拡大によって、地域と温かなつながりを持ち、お互いを認め合って成長するなかで、おかやの一人ひとりの子どもが輝けるよう願って、実施します。

特別支援学校と小・中学校との間では、すでに、学校行事などで、交流活動が行われていますが、副学籍により、居住地の学校に、下駄箱、机、いすなどが常備され、学級名簿にも名前が載るようになると、クラスメイトとしての居場所を得ることになり、行事や活動への参加機会も広がります。本人や保護者、学校の希望を確認しながら進めていきます。

相談はどこでできるの？

A 特別支援教育のほかにも、子どもの育ち全般にわたり、次の窓口で相談を受け付けています。関係機関と連携し、状況に応じた支援につながるよう、学校や保育園への助言なども行っています。話すことで解決の糸口が見えてくることもあります。お気軽にご相談ください。

♥子ども総合相談センター
(市役所2階 教育総務課内 内線1215)

相談内容…学校生活に関すること、入学・進学に関すること、不登校問題に関すること、生活習慣やしつけのこと、言葉や身体の発達に関すること、家庭における養育のこと　など
相談日時…月～金曜日 午前8時30分～午後5時

♥教育相談室
(諏訪湖ハイツ1階☎24-2206)
一般教育相談
受付…月～金曜日 午前9時～午後5時
夜間教育相談
受付…毎月第3火曜日 午後5時30分～8時
専門カウンセラー教育相談
臨床心理士（西村由記子先生）によるカウンセリング相談
相談日…10月3日・18日、11月7日・15日(予約制。1人あたり50分)

♥フレンドリー教室
(諏訪湖ハイツ1階☎24-2206)
「学校へ行きにくい」「不登校で悩んでいる」という子どものための教室。この教室への通室は学校の出席扱いとなります。中学生対象ですが、小学生の場合もご相談ください。

♥中学校中間教室(市内4中学内に開設)
「学校へは通えるけれどクラスに入れない」という子どもたちに、専任の指導員が寄り添い、学習支援や適応指導を行います。相談はそれぞれの学校へ。

特別支援学級の子どもと通常の学級のかかわりは？

A 特別支援学級と通常の学級の間では、学校生活のさまざまな場面で、ともに過ごす機会がつくられています。教科の勉強が一緒にできなくても、総合学習や音楽、体育、図工(美術)など、そして学校行事や給食などでは、原籍クラスの友だちと活動をともにします。通常の学級では、弱視や難聴、自閉症、言語や情緒の障害、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）などの子どもに対応し、必要に応じた支援を行います。ほとんどの授業を通常の学級で受けながら、状態に応じて特別支援学級で指導を受ける形態も考えられます。

地域でともに暮らすって？

A 交流や共同学習は、障害のある子どもにとって有意義なだけでなく、すべての子どもや地域の人たちにとっても、障害のある子どもに対する理解と認識を深める機会となります。

これまでに実施されてきた交流活動は、学校や地域の実態に応じてさまざまですが、地域での行事やボランティア活動に、障害のある子どもたちが参加する例も増えています。一方、特別支援学校でも、文化祭などの学校行事に地域の人たちを招き、学習のようすを紹介したり、交流する活動を行っています。

わたしたちは、地域のサポーターとして、子どもがしたいこと、楽しいと思えること、達成感が喜びにつながることなどを提案し、自立や社会参加を応援していくことができると思います。ともに支え合って、みんながいきいきと安心して暮らせる地域をつくっていきましょう。

【学校の連携から】

9月3日「やまびこ交流会」開催

湖北地区小中学校の特別支援学級の児童生徒とその保護者を対象に、交流会が開かれました。いつもと違う場所、学年や学校の枠を越えた大人数のなかで、人間関係の幅を広げ、一人ひとりの社会性を育てていく機会にしようと企画され、グループに分かれて自己紹介をしたり、遊びに挑戦したり、みんなでお弁当を食べたりして、自然豊かなやまびこ公園を、みんなで満喫しました。

〈参加者の声〉

子どもが、みんなのなかで楽しんでいる姿を見られて、うれしく思いました。

ふだんの生活では、見た目に障害がわからないので、わがままと見られてしまうこともあります。だんだんに落ち着いてくるとは思いますが、理解されないことは、本人にとってもつらいことなので、外の世界の刺激をできるだけ味わって、経験から多くを学んでほしいです。親としても、積極的に外に出て、まわりのみなさんにわかってもらえるよう努めたいと思っています。

今のところは、まだ幼いことや、いっぱいいっぱいまでがんばってしまう本人の律儀さから、気づかないうちにストレスがたまり、あとから障害の兆候が出たりすることもあるので、家でリラックスできる環境をだいじに、徐々に外になじんで地域のなかに入って行かれるよう、焦らずようすを見ながら応援していきたいです。

【地域の取り組みから】

三沢区民農園で農作業体験

三沢区では、自然とふれあい遊んだり、野菜を育てたりすることが、子どもたちの心身の養成につながれば…との思いから、区民農園の一部を「体験農園」として開放。ハンディキャップのある人や子ども、就農希望の学生らの受け入れを行っています。

川岸小と岡谷西部中の特別支援学級、また川岸地区から養護学校に通っている子どもと、その友だちや保護者でつくる「おでかけクラブ」では、6月下旬から週1回のペースで農園を訪れ、種まきや草取りから野菜の収穫までを自分たちの手で経験しました。

体験農園は、地域が子どもたちを見守り、支援の輪を広げ、理解を深め合う活動として、今後も続けられる予定です。

知りあい、ふれあい、学びあって！

ほかの子が「当たり前にできる」ことなのに、自分は「できない」。障害のある子どもは、ない子どもより、それがちょっと多いだけ。じょうずにできることがたくさんあっても、できないことが目だってしまうと、なかなか認めてもらえません。

子どもにとっての疎外感や挫折感は、想像以上につらいことです。誤解をなくし、できることを認め、個性を評価してあげられたら、楽しさや日々の輝きが、きっと違ってきます。おかやの子どもが、一人ひとりみんな輝けるように、わたしたちも理解の幅を広げていきましょう。

市立岡谷図書館 タイアップ企画

～もうひとりで悩まない～

「みんなで子育て」特設コーナー設置

期間…9月29日(土)～10月25日(木)

子育ては十人十色…子育て中のパパ・ママにおくるヒントや、発達特性のある子どもについてやさしく解説した本を集めてみました。貸し出し可能ですので、ぜひご利用ください。

「発達障害を持つ
子どもの心ガイドブック」
主婦の友社 編／主婦の友社
自閉症、アスペルガー症候群、ADHD、LDなど、発達障害を持つ子どもたち。子どもの生きづらさを取り除いてあげるために、学校や家庭でできることは？

「仲間と描く大きな未来 ～一途に ひたむきに～」

すべての人が自分らしく輝いて暮らしていくことができる未来を、多くの人とともに描きたいと願い、イベントを開催します。多くのみなさんのご参加をお待ちしています!!

入場無料
申込み不要

日時…12月16日(日) 正午～4時
場所…カノラホール 小ホール
内容…映画上映会
「幸せの太鼓を響かせて ～インクルージョン～」
福祉施設ほかで製作した自主製品販売、
和太鼓チーム「湖響龍夢」の演奏会　など
主催…「未来プロジェクト 絆」
共催…川岸地区障害児療育・社会参加支援事業「おでかけクラブ」、岡谷市、岡谷市教育委員会

問合せ●教育総務課(内線1215)